

クロイツフェルト・ヤコブ病診断以前の脳外科手術について

1 現状

脳神経外科手術を行った患者が、後に CJD と診断された場合、脳神経外科手術の器具を介した医源性 CJD 感染の危険が指摘されている。

我が国において、既に一昨年報告例があり、同じ手術器具を使用した他の患者（リスク保有者）に対して献血などを行わないように告知等を行ったところである。また、通知を発出し、都道府県、関係団体等に対し適切な消毒方法の周知・徹底を図ってきたところである。

今回、このような事例が更に 2 例発生したため、クロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス委員会の意見等をふまえ、当該医療機関に対してリスク保有者に対して告知等を行うよう指導を行った。

なお、英国 CJD インシデントパネルにおいては、通常の消毒法が取られている場合は、手術器具に付着したプリオンの病原性が約 10 回の通常の消毒にて除去されることから、CJD 患者の手術後同一器具使用の最初の 10 名をリスク保有者として記録し、必要に応じて告知等の対象としており、これを参考として対応を行った。

2 医療機関への対応

1) 2 例目

CJD と後に診断された患者への手術後、23 名の者に対して同一器具による手術が実施された。このうち最初の 10 名をリスク保有者と考え、平成 17 年 12 月 24 日に病院に対して告知を実施するよう指導した。また、リスク保有者とは考えない残りの 13 名についても、カルテの保存を指導した。

2) 3 例目

CJD と後に診断された同一患者への手術が 2 回行われており、それぞれ 4 名、8 名の者に対して同一器具による手術が実施された。合わせて 12 名全員をリスク保有者と考え、平成 18 年 1 月 6 日に病院に対して告知を実施するよう指導した。

(※) 各事例

	同一手術器具使用者数	告知者数
1 例目	11 名	11 名
2 例目	23 名	10 名
3 例目	12 名（8 名＋4 名）	12 名